



H 2 9 全国学力状況調査結果を振り返って

全国学力調査の結果が報告されました。本校の結果は以下のようにになりました。この結果を今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。

【国語科】

- 国語A・Bとも4年連続で全国・県平均よりも上回っている。
 - 国語A（主として知識を問う問題）は、全国平均とほぼ同じであった。15問中12問で正答率が8割程度または8割を超えた。最も正答率が低かったのは、漢字を書く問題で「参加たいしょう」（対象）。同音異義語の中から正しく選んで書くことができない。
 - 国語B（主として活用する力を問う問題）では、「読むこと」の力が全国・県平均をやや下回る。登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える力に課題がある。
 - 読書が好きであると答える子供が全国・県平均より少ない。
- <学校と授業の中で>
- ・特に正答率の低かった問題をもう一度やり直し、定着を図る。
 - ・授業の中で物語の全体を捉える読みや、心情や情景を表す言葉に着目した読みを大切にして指導する。
 - ・学習の意欲を高める言語活動を工夫したり、教材を発展させた読書を促すよう意識して授業を行う。
 - ・月末テストのように基礎的な内容の定着を図る機会を今後も継続していく。
- <家庭と連携をして>
- ・漢字・語句の定着を図るために、引き続き家庭学習での取り組みを続けていく。（「家庭学習の手引き」をもとに）
 - ・家庭での読書を奨励し、様々な表現に慣れ親しませていく。

【算数科】

- 今年度は算数A・Bとも全国平均をやや上回り、過去3年間では最も正答率が高かった。
 - 算数A（主として知識を問う問題）では、単純な計算問題の正答率が高いが、たし算とかけ算の混ざったやや複雑な問題では正答率が低かった。図形に関する問題でも正答率がやや低かった。
 - 算数B（主として活用を問う問題）では、平均や割合に関する問題で、条件が複数重なってくる小問の正答率が低かった。
 - 算数の勉強は好き、分かると答える子が全国平均より少ない。
- <学校と授業の中で>
- ・正答率の低かった問題をもう一度やり直し、定着を図る。特に、図形に関わる問題は繰り返しの学習で定着させる。
 - ・複雑な問題でもあきらめずにじっくり考えさせること、考えの道筋を図や言葉で表現することを重視する。
 - ・月末テストのように基礎的な内容の定着を図る機会を今後も大切にしていく。
 - ・高学年での少人数指導やTT指導など、指導方法の工夫を続け、分かる実感を味わわせていく。
- <家庭と連携をして>
- ・学習の基礎・基本的な内容や算数用語の確実な定着を図るため、家庭学習の充実を図っていく。

【児童質問紙】 ※全国平均と比較した結果

＜よいあらわれ＞

- ◎テレビ・ゲーム・インターネットを長時間行っている児童が減り、全国平均を下回った。
- ◎ものごとを最後までやり遂げることができる児童が多い。
- ◎自分には良いところがあると思っている児童が年々増加している。
- ◎学校へ行くのが楽しいと思っている児童が多い。
- ◎学級のみinnで協力してやり遂げた満足感が高い児童が多い。
- ◎いじめはどんな理由があってもいけないと考えている児童が多い。

＜改善したいあらわれ＞

- ▲学校の授業以外に勉強する時間が1時間未満の子供が4割いて、全国平均と比べると割合が高い。
- ▲読書時間や図書室へ行く回数が、年々減ってきている。
- ▲家で自分で計画を立てて勉強をする児童が少ない。
- ▲家の人と学校のことや将来のことを話す児童が少ない。
- ▲地域社会でボランティア活動に参加したことのある児童が少ない。

＜今後の取り組み＞

- ・本校の児童は、学校へ行くのが楽しく、学級のみinnで協力してやり遂げた満足感の高い児童も多い。この良さを今後も伸ばしながら、読書への興味を高めたり協力する心を学校外へも広げたりする指導をしていきたい。
- ・地域や家庭とも連携して、自分で計画を立てて家庭学習を行うことや、規範意識の徹底などができるように働き掛けていく。